

# 廃プラ・金属を高精度選別

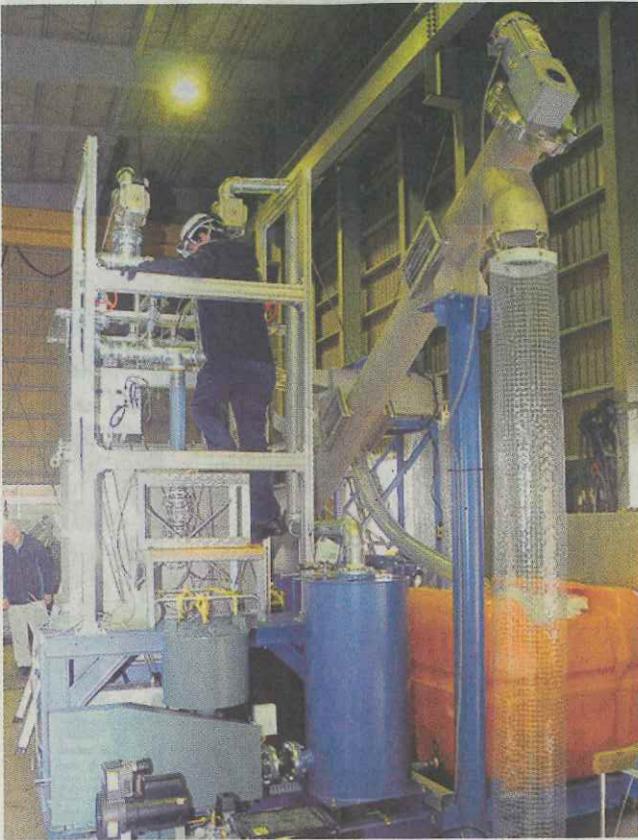
## 登別 アール・アンド・イー

### 資源循環装置「リタックジグ」

# 引き合い強まる

環境や建材事業のアール・アンド・イー（登別市、伊藤淳代表取締役）が、製造販売する廃棄物材比重差の違いを利用して分離する「網下気室型湿式比重選別機（リタックジグ）」が企業や研究機関からの引き合いが増えている。廃プラスチックや金属を高精度で選別できるのが特徴で、資源循環の高度化につながる技術として注目されている。

（浪越崇宏）



資源循環につながる技術として引き合いが強まっているリタックジグ

リタックジグは、水中で廃棄破砕物を揺動運動させ、素材ごとの比重差で選別する仕組み。比重差が少ない素材でも選別できるため、従来は難しいとされてきたプラスチック樹脂など材質別の分別にも対応。再資源化の効率向上につながる。家電や自動車の破砕処

はオーダーメイドが中心という。同社のエンジニアリング事業部の村上孝志JIG部長は「SDGsに貢献できる機械。リサイクル技術の重要性は今後さらに高まる」と話し、産

理に加え、太陽光パネルの廃棄量増加を背景に需要拡大が見込まれている。リサイクル需要の高まりを受け、製品化から10年以上が経過した現在、改めて関心が高まっている。装置の製作には、制御盤や電気系統など150点以上の部品が使われ、20社を超える企業関わっている。同社は「ものづくりのまちの技術の結集があつてこそ」と、地域企業との連携を強調する。今回製作した装置は、茨城県の産業技術総合研究所（産総研）に納品され、研究や実証に活用される見通し。

現在は、自動車や家電メーカーなどからの問い合わせもあり、試験段階に進むケースも出てきた。選別対象に応じて仕様を調整するため、製品

業廃棄物処理関連装置の開発強化と販路拡大に意欲を示す。



道内新聞社5紙に